



形、長野は盆地になっているため、地形の影響が現れたものと推察できる。また、九州地方はあまり変化が見られなかった。

### 5 - 3 日照率

図4より、北海道の気候区分線は50年前より大きな変化が見られた。1950年代は北東から南下するように引かれているのに対して、2000年は北から降りてきて南西に伸びている。浦河周辺の遷移領域が西に移動している。本州の気候区分線は50年前と大きな変化はなく、降水日数の場合と同様に長野周辺の遷移領域は大きさが小さくなっているものの、位置は変化していない。

### 5 - 4 気温の日較差

図5より、北海道に大きな変化が見られた。旭川の遷移領域が拡大し、倶知安から八戸まで遷移領域ができた。西日本において、気候区分線が実線で引かれる場所より点線で引かれている場所が多く見られる。これは、境界が区別し難くなっていることを示しており、温暖化の影響と考えられる。図6から、年平均気温が50年で全国平均値が0.75 上昇しており、岡山及び鹿児島が1.9、東京及び高松が1.8、大阪及び広島が1.7、仙台0.8と各地で上昇しているのが分かる。しかし、室蘭や網走などの一部で-0.3と低下していた。

## 6 . まとめ

1950年代の気候区分はどの要素も類似した形になっているのに対して、2000年は要素ごとに違う形になった。特に北海道は大きく変化している。本州は遷移領域が変化しているが、区分線はあまり変化していない。

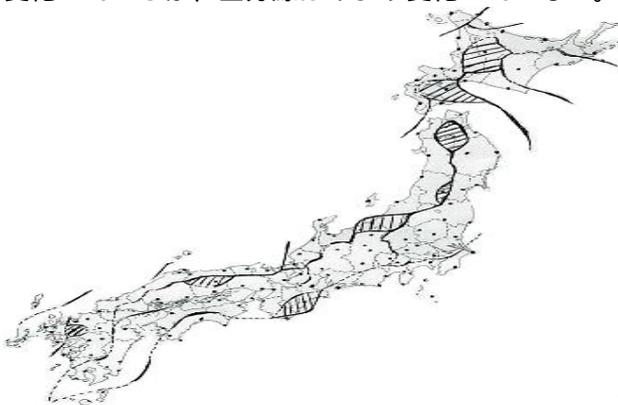


図2 水分過剰量

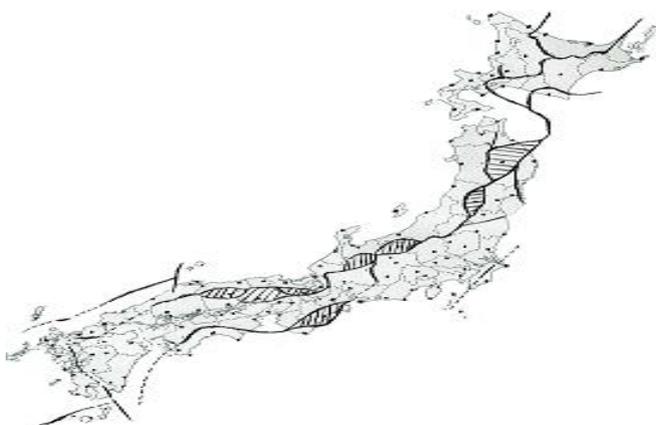


図3 降水日数



図4 日照率



図5 気温の日較差

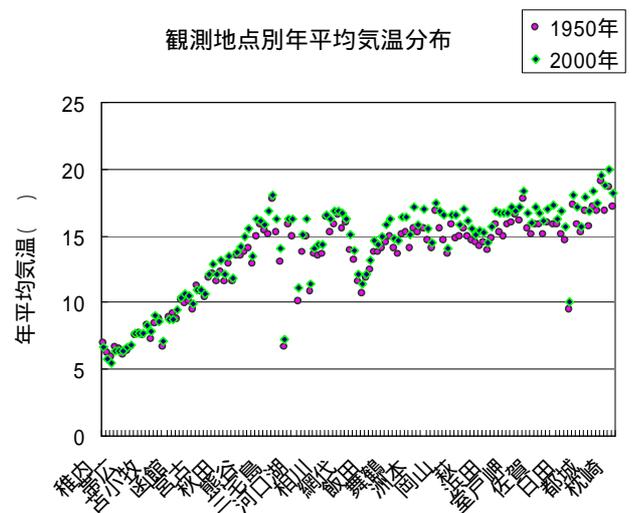


図6 観測地点別年平均気温分布図

### 参考・引用文献

- 1) 関口武：日本の気候区分、東京教育大学地理学研究报告 pp65 ~ 78 東京教育大学理学部地理学研究室 1959
- 2) 関口武：日本の気候の特性 1 ~ 3、地域 1巻(2) ~ (4) 日本書院 1952
- 3) 関口武：気候の合理的分類の道 地理学評論 pp28 ~ 33 日本地理学会 1949
- 4) 山口伊佐夫：応用山地水文学 pp45 ~ 46 地球社 1996